

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	若林 正則
2-4	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	企画課、健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,027	39,571	39,115	
実績値						41,278	40,483				
見込値											
											実績値
見込値											
										実績値	
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている。		①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	目標値	%		42.0	44.0	46.0	48.0	50.0	
						実績値	40.2	40.3			
			目標値								
			目標値		人						
	実績値										
		目標値		人							
	実績値										
		目標値		人							
	実績値										

成果指標設定の考え方 ○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来ているかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っていると答えた市民の割合」において把握する。

成果指標の把握方法及算定式等 ○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。  
○①週1回以上スポーツを行っている市民の割合、②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合は、市民アンケートより求める。③市のスポーツ施設利用者延べ人数は、市内体育施設及び小学校体育施設使用許可申請書より求める。④スポーツ少年団登録指導者数は、スポーツ少年団の指導者登録人数より求める。

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	

背景・要因

○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は、28年度40.2%、29年度40.2%と横ばいであったが、30年度は、40.3%と若干であるが上昇した。今年度も運動をしている人が習慣的・継続的に運動していると思われる。また、スポーツをしている人の中で、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は、28年度60.9%、29年度は61.5%と0.6ポイントの微増であったが、30年度は57.4%と4.1ポイント減少している。運動・スポーツが生活に定着しつつあり、満足度がわずかながら高まった。  
○年齢別の1週間に1回以上のスポーツ実施率は、70歳以上は62.2%と平均値40.2%を大きく上回っているが、20歳代9.5%、30歳代12.5%、40歳代18.0%、50歳代23.9%、60代は33.5%と、平均値をすべて下回っている。この要因は、20代から50代の方は仕事・子育ての関係から、60代についても再雇用等における仕事上の関係から実施率が低いと思われる。なお、70歳以上でスポーツ実施率が高いのは、余暇があることに加え、近年の健康志向と相まって体力づくりをする意識が高いことや、ここ数年力を入れている「総合型地域スポーツクラブ」などの取り組みの成果が出てきていると考えられる。  
○スポーツ施設の延べ利用者数は、29年度289,594人、30年度289,812人とほぼ横ばいである。これは、スポーツ実施率も横ばいとなっていることや、体育施設利用団体数についても、28年度177団体、29年度167団体、30年度181団体とやはりほぼ横ばいとなっていることが考えられる。このことから、施設を利用する人や団体は通年を通してあまり変わらないことが推測される。なお、近年は運動をする人とならない人が2極化していると思われる。  
○スポーツ少年団登録指導者数は、28年度188人、29年度169人、30年度160人と減少傾向である。これは少子化によりスポーツ少年団の団体数や団員登録数の減少によるものと思われる。

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	

背景・要因

○週1回以上のスポーツ実施率の目標値44.0%に対して40.3%と3.7ポイント下回っている。  
○スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合については、目標値67.0%に対して57.4%と9.6ポイント下回っている。  
○市のスポーツ施設利用者延べ人数は、目標値280,000人に対して289,812人と9,812人上回っている。  
○スポーツ少年団登録指導者数は、目標値198人に対して160人と38人下回っている。

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>・30年度貢献した事務事業は「総合型地域スポーツクラブ支援事業」、「体育協会助成事業」、「スポーツ少年団育成助成事業」、「スポーツ推進委員運営事業」等であった。</p> <p>・「総合型地域スポーツクラブ支援事業」では、NPO法人桜川スマイルクラブの活動支援として、11教室を実施するにあたり、体育施設の年間予約を優先的に行った。また、SAKURAフェスティバルでは専用ブースを設け、「桜川スマイルクラブ」の各教室内容やイベントの案内、並びに会員増加に向けての加入促進活動など、後方からの支援を行なった。</p> <p>・「体育協会助成事業」は各種団体(28団体)への補助事業を始め、ふれあいウォーク桜川の実施やマラソン大会への協力、また全国大会への出場支援など広く育成強化を図った。</p> <p>・「スポーツ少年団育成事業」は33単位団体への育成を目的に、団員募集案内を行い、団員の増加と活性化を図った。また、茨城県スポーツ少年団大会への参加申し込みや認定員養成講習会への積極的な参加を促すなど、リーダーの育成に努めた。</p> <p>・「スポーツ推進委員運営事業」は、さくらマラソン大会などの市主催事業や国体リハーサル大会に積極的に協力した。また、奇数月の第一水曜日に定例会を開催し、市内のスポーツ振興に関する協議を重ねた。</p>	<p>・今後は、普段スポーツに取り組んでいない人なども対象に、健康維持や生活習慣病及び介護予防も視野に入れながら、健康推進課・高齢福祉課などと連携を図り、身近で出来るウォーキングや散歩、ラジオ体操などの普及・啓発や健康体操教室の開催等を行っていく。</p> <p>・利用者の安心・安全のため、老朽化に伴う修繕・改修を行うことにより、施設の充実を図る。</p> <p>・総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が平成22年10月に設立し、平成28年9月にはNPO法人化するなど、順調な運営を行なっている。スポーツ実施率からみると、70歳以上は気軽にスポーツが出来る環境は整ってきているが、20代から60代までの実施率を上げるには、更に「体育協会」と「NPO法人桜川スマイルクラブ」との連携が必要であり、さらに子育てをしながらの参加や、仕事が終わった後に参加出来るような魅力のある仕組みを今後考えていくことも必要と思われる。</p>